

急激な景気の悪化で、非正規労働者の解雇が相次ぎ、正社員や自営業の方も収入減に苦しんでいます。2月18日から3月19日まで開催された川崎市議会3月議会で日本共産党川崎市議員団は、こういうときこそ自治体が手を差しのべるべきと、雇用や緊急経済対策の拡大、子どもたちへの援助の拡大などを求めました。詳細は別紙市議会報告「明るい川崎」で報告します。

かわる版すげ

2009年3・4月
市議会報告
日本共産党
市議員
井口まみ

(発行)
日本共産党市議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
http://www.
iguchi-mami.jp

「JR稲田堤駅を安全に」の声、一步前進!

2009年度にエレベーター設置決まる

「稲田堤駅を安全で、使いやすい駅にしてほしい」という強い願いを実現しようと、たくさんの方々ががんばっています。川崎市は、二〇〇九年度に稲田堤駅にエレベーターを設置する予算を計上したことを明らかにしました。日本共産党の井口まみ市議員も、駅前の踏切の安全対策を議会で求めました。

地元の声をよく聞いて検討を

井口市議は昨年十二月、市議会一般質問で「南武線の溝ノ口駅以北の各駅の基礎調査を行っているとのことだが、その中で地元の方々が橋上駅舎にしようとする運動を始めていて、住民の方々の声をしっかりと聞き、取り入れるべき」と質問。まちづくり局長が、「今年度から稲田堤駅を含む南武線武蔵溝ノ口以北の片側改札の各駅を対象に、駅アクセス向上の計画づくりに着手した。今年度、各駅の現状や課題の整理などをしているので、市民の皆様から寄せられている各駅の改善に関する要望等を整理していく」と答えました。

念願のエレベーターがつく!

このたび稲田堤駅へのエレベーター設置の予算が計上されました。二〇〇九年度は、京急川崎駅、尻手駅、平間駅、稲田堤駅に各二基ずつエレベーターを設置する予算が1億3333万円つき、二〇一〇年三月までに完成する予定です。

これまで、「ベビーカーを持ち上げて階段を上り下りしていた。本当に怖い」「足が悪いので、多摩病院に行くにもタクシーで行っている」など、エレベーターを切望する声がありました。

橋上駅舎を望む皆さんからは「二重投資になるのではないか」との危惧もありますが、エレベーターは再利用できるので、今の駅に設置後、橋上駅舎化も急ぎ検討することが必要です。

たくさん寄せられました。

2009年度予算で菅の緑地保全へ

多摩区菅仙谷二丁目、長いこと放置された緑地があります。西菅団地の開発の際、住民の方々の強い要望で緑地として残すことを決めながら、ずっと市が放置してきた緑地を、ようやく来年度の予算で取得し、「菅小谷みどりの保全地域」として残すことが決まりました。十二月議会で、井口まみ議員が「早く取得して保全すべき」と求めていました。面積は約六七〇〇平方メートルで、二〇〇九年度に市が土地開発公社から購入したあと、緑地保全計画を立てます。まわりの皆さんといっしょに保全活動ができればいいですね。



保全が決まった菅仙谷2丁目の緑地

駅前踏み切りの安全対策を

駅前の踏み切りは、朝夕のラッシュ時遮断機が閉まっているときに、府中街道側から来る人が車道までひろがり、車と人が交錯して、たいへん危険です。井口まみ市議員は市に対策を求めました。

歩道を少しでも広げて

斉藤建設局長は「踏切内の路側部分のカラー舗装を早期に行う予定。通行のさまたげになっている踏み切り直近の電柱は、所有者と協議し、移設の可能性を検討する」と答えました。

大人の間をかきわけて歩く小学生

登校する小学生が、踏み切りの中でアユの遡上のように、人の流れと反対方向



人と車が交錯する朝の稲田堤駅前踏切

に、大人の間をかきわけていかなければならない現状です。木場田教育長は「教職員やPTAの交通安全指導を継続する」と述べるとどまりました。井口市議は「絶対に事故を起こさない対策をとるべき」と求めました。

注意喚起の看板を設置する

狭い駅前道路は、一台でも違法駐車があると渋滞し、駅前を人が五月雨のように渡っており、交通ルールの徹底が必要ではと質問。菊池市民・ことも局長は「簡易看板等を設置して、注意喚起をしたい」と答えました。

多摩自然遊歩道が拡大へ

黒沢明監督「蜘蛛巣城」のロケ地も

多摩自然遊歩道には、市の内外からたくさんの方々が来ています。この遊歩道は、JR稲田堤駅から小沢城址をとおる、菅野堂から小田急の読売ランド前駅が終点でした。でも菅野堂の先には、菅北浦緑地、菅馬場緑地があり、そこを通れば、東生田自然遊歩道につながり、2つの遊歩道をつないで、まさに「多摩の横山」をずっと伝っていくことができます。

川崎市は、その声に答え、子の神社の上を歩きやすいよう整備し、このたび、自然遊歩道として追加指定しました。これも十二月議会で井口市議が求めていたもので、これにより、黒沢明監督が「蜘蛛巣城」のロケ地として使われ、その当時のまま残されている菅北浦緑地、宅地として開発されそうになったものを何度も押し返して緑地として残した菅馬場緑地を、子の神社や菅野堂など歴史的遺跡とともに堪能することが出来ます。

JR東日本とも交渉

井口市議は「これらの問題を解決するためには、橋上駅舎が最善」と求めるとともに、踏み切りの安全対策を急ぐよう強く求めました。

井口まみ市議員は、JR南武線をよくしようと取り組んでいる日本共産党の申し入れに同行し、二月二十三日、JR東日本横浜支社に、「稲田堤駅を橋上駅舎に」と申し入れました。JR東日本横浜支社は「川崎市が都市計画の中で進めるのであれば、誠意を持って対応したい」と答えました。

ご協力ありがとうございました

「雇用と労働に関するアンケート」 1500通を超える返信が！ 深刻な労働の実態が明らかに

日本共産党川崎市議団が取り組んだ「雇用と労働に関するアンケート」の返信が、全市で千五百通を超えて寄せられ、「解雇された」「仕事がなくなり収入が激減した」など大変な実態が川崎市内でも広がっていることが明らかになりました。相談のなかで個人加入の労働組合に入る人もいるなど、新しい一歩につながった人もいます。

「派遣切り」は

他人ごとではない

寄せられたアンケートには、「派遣切りにあつて、収入がない」「仕事がなくなつて、家賃が払えない」などの、深刻な話で埋め尽くされておりました。あらためて雇用の現実の厳しさを実感させられます。「今はまだ大丈夫」という人も「こんなに若い人を使い捨てする社会は、未来がない」「これからの会社は大丈夫なのだろうか」という声も寄せられ、どの年代、どの階層の方も、今の社会のあり方を心配していることがうかがえました。

保育園に入れなくて働けないという声が増えている

圧倒的に目立ったのが、「保育園に入れられない」という訴えでした。おろしも保育園の入所申し込み、発表の時期で、「働かないと生活できないのに、保育園に入れなかった。川崎はどうなっているのか」という悲痛な声が上がっています。

日本共産党議員団はこの声を代表質問でも取り上げ、直ちに市の対応を求めました。

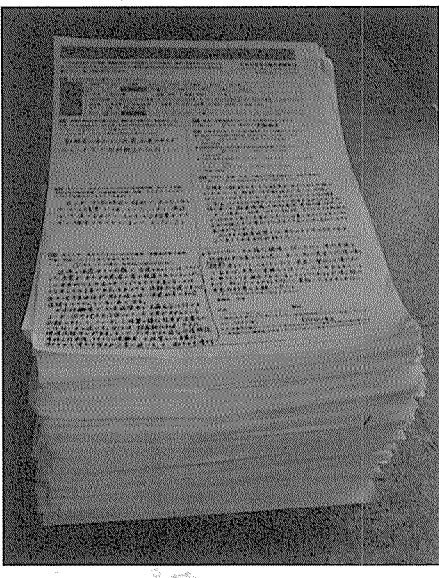
労働組合に入ろう

同様に目立ったのは「困ったことがあつてもどこに相談

したらいいのかわからない」という声でした。「バイトだもまったく給料が増えないのはおかしい」という相談に対し、働いている地域の労働組合を紹介したところ、「さっそく加入しました。いま、会社と交渉する準備をしています」とメールが届きました。

いっそうの相談活動を

これからさらに、三月末を迎えて、派遣切りなどの人が増えるといわれています。日本共産



党は国や市に対し、雇用だけでなく生活の問題も同時に相談できる窓口を創設することを求めています。何かあったらいつでも、日本共産党市議団にご相談ください。

全市から寄せられたアンケート。ぎゅぎゅと悩みが書かれています。

「子どもの学費が工面できない」奨学金、貸付などの制度があります あきらめないでご相談を

「私立にいきたいが、入学金も授業料も心配」「親の収入が急に減って、授業料を払い続けられない」など、今の不況が子どもたちにまで影響を及ぼしています。日本共産党市議団では、子どもたちの夢をあきらめずにすむように、国や川崎市、神奈川県などの奨学金や貸付の制度をまとめて紹介しています。

川崎市には返還しなくてもよい高校生のための奨学金制度があります。4月の中ごろが締め切りなので、通学している学校で申し込みますが、市が予算を減らし毎年希望者の3分の1、350人しか受けられません。日本共産党は予算を増やすよう、つよく要求しています。

お問い合わせは、
Tel 200-3360まで



生田浄水場はなぜ廃止されるのか

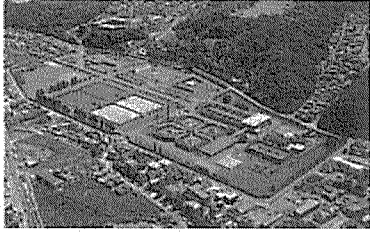
その4

※生田浄水場が廃止される計画であることをお知らせしたところ、多くの方から「なぜなのか」と問合せがありました。そこで何回かに分けて、川崎市の水道の歴史や今の計画について、お知らせしていきます。今回はその4回目、最終回です。

生田浄水場を廃止し、自己水源からの水を減らして、企業団の水は買いつける。これはどんな問題を持っているのでしょうか。

なによりも、市内で手にはいる、しかもほとんど手を加える必要のないきれいな水を放棄することは、地震など、大規模災害のときの備えを失うということになります。井戸水は水道局がペットボトルで売るくらいきれいで、災害時には大きな役割を果たします。市内の水源がなくなれば、相模湖は川崎から三十二km、企業団の飯塚取水堰は五〇kmと、遠いところからしか水はこなくなるのです。日本共産党の井口まみ市会議員は、二〇〇七年の十二月議会で、「自己水源を手放して、いざというときにどうするのか」と質問し、「災害時の緊急用水源として、(いくつもの)井戸を維持する」という答弁を始めて得ました。やはり遠くの水源よりも近くの水源のほうがいざというときには必要なのです。

また、河川の下流から取る水が増えることは、水質の悪化をもたらします。いまは、相模湖の水が中心ですから、不純物は泥がほとんどです。そのため長沢浄水場では細かな泥をとればきれいになります。川崎市の水は、井戸水はもちろん、相模湖の水もきれいなので、コストもかからずおいしいのです。しかし、他の都市では、さらにさまざまな不純物を取り除くため、高度処理を行っています。大阪市は、粒状活性炭処理とオゾン処理の工程を加えるために、相当の設備投資をしています。川崎市も今回の長沢浄水場の改築にと



生田浄水場全景

ご意見、ご感想をお寄せ下さい